情報学環
ダイワユビキタス学術研究館

Introduction
この度、大和ハウス工業株式会社様より、東京大学の教育研究に資するため、本郷キャンパス内に、教育研究棟「ダイワユビキタス学術研究館」を寄贈頂いた。当館は、2012年10月に着工し、約1年半の工期を経て、2014年4月に完成した。2014年4月21日に本学側への引き渡しが完了し、現在情報学環では当館における教育研究を開始すべく、着々と準備を進めている。

これからの教難で、ご寄贈のご趣旨に沿い、まず最初に、総合分析情報学コース及びユビキタス情報社会基盤研究センターにおけるユビキタスコンピューティング分野の教育研究を実施する。第二に、大型空間を、コンパクトな空間でユビキタス技術を駆使しで提供する「ユビキタス空間物アーカイブ」を設置し、世界中の若者の教育に役立てたいと考えている。

当館の建築にあたっては、坂村健教授を責任者として建物のプロデュースを行い、更に建物の意匠設計を工学系研究科・隈研吾教授が担当し、東京大学が一助協力した体制をとることができた。今後、こうしたご寄贈の趣旨をいかし、世界に誇る研究成果と、世界で活躍できる人材の輩出に向けて、取り組んでいきたい。

最後に、本館を寄贈頂いた、大和ハウス工業株式会社に感謝申し上げるとともに、情報学環の関係教員の皆様、事務の皆様、また本部施設部等、多くの関係者、ご協力頂きました学内外の皆様に深く御礼申し上げたい。

記念式典

2014年5月14日（水）に、この新棟を会場として、「ダイワユビキタス学術研究館・竣工記念式典」が開催された。午前11時～11時12分には、報道関係者にお集まり頂き、プレス発表およびプレス向けの内覧会を実施した。メインエントランスにおいて、横口武男・大和ハウス工業株式会社代表取締役社長、須藤修学長、坂村健教授、隈研吾教授（工学系研究科）によってオープニングが行なわれた。引き続き館内の内覧会を実施したあと、3階のダイワハウス石橋信夫記念ホールにおいて、補足説明や記者との質疑応答を実施した。

引き続き、13時～13時50分に、坂村健教授、隈研吾教授による記念シンポジウムを開催した後、15時30分から記念式典を開催した。大学を代表して黒田純一総長、寄贈者を代表して大和ハウス工業の鶴口会長からご挨拶いただき、坂村健教授、隈研吾教授による当館のご説明のあと、黒田総長よりダイワハウス工業株式会社に対し、今回の寄贈に感謝する感謝状が贈呈された。その後、式典出席者への内覧会のあと、祝賀会を行なった。学内外から多くの方々にお越し頂き、盛大に終了した。
施設紹介

キャンバスに調和したデザイン (1)
春日伝から構内へと続く通路は、校舎を基調としたキャンパスの新しい交流拠点となる。構内通路両側の外壁は素面処理を施
した杉板を用いた木造版のファサードを形成し、従来のキャンパス建築にはない柔らかく暖かい表情を作り出している。

キャンバスに調和したデザイン (2)
隣接する校舎庭園側へのファサードには、日本を代表する画家である北斎を想いとする特別な壁を柱に、日本庭園と建築との融合を図っている。

ユビキタスコンピューティング環境
ユビキタス学術研究館の名前に相応しい最先端のユビキタスコンピューティング技術を用いたスマートビルとなっている。館内の
温度、湿度、照度、空気の流れ、モノに対する状況を自動認識し、環境、セキュリティ、エネルギー消費の最適化を指向。

ダイワハウス石橋信夫記念ホール
3階におき、126席からなるホールとして、ダイワハウス石橋信夫記念ホールが設置され、様々な領域を含む研究・教育兼情発信
の拠点として機能する。情報学環だけでなく、学外の主体が実施する学術シンポジウムやイベントのための利用も可能である。

ユビキタス空間物アーケイブ
従来アーケイブが占めていた構内の空間を、デジタル情報技術を駆使してコンパクトな空間に展開する。地下1、2階
吹き抜けのギャラリーに、大型スクリーンへのマルチプロジェクター投影を行い没入感のある実物大映像展示を実現する。

カフェ
1階に設置されているカフェコーナーでは、校舎建築の魅力を間近に見ながら、屋内外の空間を利用して、くつろぎのひととき
を過ごし、教職員や学生の交流を深めるためのスペースを提供している。本郷キャンパス初の「和カフェ」である。

情報学環
影浦 峠 [かげうらきょう]
教授
教育学科研究科から流動教員として来ましたが、記号や言語学研究科から言語学として存在することを
可能にする物理的な条件を低い解釈で
記述することを基本テーマにします。より
具体的な研究としては、集合としての図書や言
葉のたんびと配置の記述、それと前職した言
語活動、とりわけ最近では翻訳を支援するシステムの構築とそれ
を通した翻訳労の外的アーカイブ化と活用方法の開発などを行
なっています。専門分野は関係ありませんが、原発事故後に緊
急した建築学論文にも反応し、いくつか発表する社会活動にも関
わっています。学問という環境に慣れるまで手間取るかもしれませんが、
どうぞよろしくお願いいたします。

真鍋祐子 [まなべゆうこ]
教授
情報学環は今回で二度目の流動になります。専
門は朝鮮地域研究で、隠匿信仰、社会運動、伝染、
観光など、『ナショナリズムとグローバリズム』
の（いじり）をグローバリズムに、やや隠蔽課題の
研究を行っています。最近は在日の方々に関する
者による「知る」形成という問題を奥落してい
ます。また、前回の流動で新世紀になった時に学環の先生や学生
と始めた「光州研究会」が現在、朝鮮民主化運動の日韓連帯に
かかる研究にも少しくかかわり、当時の関係者との資料整理や読
書を必要とするところです。学環は学専のあるところですが、それらをなんとか成果にしてお返ししたいと考えています。
どうぞ宜しくお願いいたします。

金井 崇 [かないたかし]
准教授
総合文化研究科から流動教員として情報学環に
配属されました。専門はコンピュータグラフィックス（CG）
とその応用です。中でも、
形状モデリング、物理法則アニメーション、
CAD/CAM 等の研究を行っています。特に、リ
アルタイム処理のための CG アルゴリズムの
高速化や、新しい形状表現手法の創出、考案ごすで研究を
しています。なお、研究の本筋とは外れますが、私は工学部精密機械工学科（あらかじめ工学科）卒で、当時は、建築学部工学 2 号館
の地下にあったプラザ小屋の研究室で修士を達成しました。元
の所属とは違いますが、こういう形で工学部 2 号館を再び利用
することができるとあって、大変感謝深いものがあります。

前田幸男 [まえだゆうお]
准教授
私は 2006 年 5 年間で流動教員としてい
ました。当年度から情報学環に所属すること
となりました。前回は異なる分野の先生方や
大学院生の皆さんから教えてももらうことが多
かったように思いますのが、今回は私の専門分野
から学環・学部の研究・教育に貢献することに
力を注がたいと思います。専門は政治学ですが、主に選挙論の
選挙データと世論調査の時系列データを分析して論文を書いてい
ます。これらのデータは有権者の政治的判断の記憶に他なりませんが、政治文化的やメディアの報道内容と照らし合わせることでより理解が深まります。その観点から、最も国際共議や
新聞報道等のテキストデータの内容分析にも関心を持っています。

学際情報学府 学位記授与式
3 月 24 日、有明コロッケ
ムにて大学全
体での学位授
与式が行われ
られた。午後よ
り、福武ラーニングシアターにて学際情報
学府の学位授与式が執り行われた。修士課
程修了者 72 名、博士課程 4 名（年度内退修
者 3 名を含む）に順番学長より学位を
授与され、学府長と石崎統領から祝辞が
送られた。

優秀修士論文発表会
学際情報学府学位授与式に引き続き、福武
ラーニングシアターにて優秀修士論文発表
会が開催された。優秀賞を受賞した佐藤
寿昭（社会情報
学コース）、近藤
和都（文化人類
情報学コース）、
李翔（総合分析
情報学コース）と、学府学長に輝いた吉田
成新（先端表現情報学コース）の 4 名がそ
れぞれ受賞論文について発表を行った。

総長席受賞
吉田成新（先端
表現情報学コー
ス）が修士論文
「身体反応の
フィードバック
による感情体験の操作」の研究業績により、
平成 25 年度東京大学総長賞（学術）を受
賞した。3 月 30 日に東京大学ホールで行われ
た授賞式で、演説を含む表彰式に出席した。

情報学環教育部修了式
情報学環教育部は、情報・メディア・コミュニケーションについて情報学の体系的な教
育を行う、ユニークな学際的教育プログラムである。3 月 19 日、福武ホール・ラーニ
ングスタジオで、修了生 29 名に学環長より授賞式が開催された。教授や教員が授賞する
研究生も列席する中、修了生たちは笑顔でそれぞれの記念をたたえあった。
東日本大震災復興を考える公開シンポジウム

東京大学大学院情報学環伊東研究室では、東日本大震災から3年を経て、文学部東日本大震災復興支援学際会議（一ノ瀬正樹会長）と共催で3月9日（日曜日）、11日（火曜日）の両日、公開シンポジウムを開催した。

9日は黒川清・福島県立原発事故前調査委員長から3月11日から20日までのガバナンスに関する問題提起、カレスタス・ジュマ・ハーヴァード大学ケネディ政教大学講師による3月11日を含む日本の社会に期待されている国際シンポジウムのメッセージを受け、早野龍五・理学部物理学教授、鈴木寛・公共政策大学院教授、一ノ瀬正樹・文学部哲学教授らが慎重に討議した。息絶えを挙げて塩澤昌秀・農学生命科学研究所教授による福島農業土壌の放射能特性、医科学研究所の大学院生である呉博泰正・南相馬総合病院医師によるホルモンディスク検診結果の被災地現状の報告を受け、西垣宗史・情報学環名誉教授、山田義司・統合文化研究所名誉教授、人文科学研究所大学院生の丸山文隆君を加え、一般市民の立場で現状の状況と如何に対峙すべきか、ディスカッションが展開された。

3月11日は、残留放射能問題における市民社会の技術者・学士の誤解を深める取り組み、小中野邦太・ブラザラファウンデーション理事長（作家、元郵便局）、山崎教授、一ノ瀬教授、鬼頭尚一新領域創出科学研究所教授、丸山文隆君のメンバーにフロアからの意見を交え、充実した議論が展開した。全体の制作・進行は東日本大震災復興支援学際会議事務局長の伊東が務めた。

（准教授・伊東 乾）

角川文化振興財団メディア・コンテンツ研究寄付講座
開設記念シンポジウム「メディアミックスの歴史と未来」

2014年3月11日、角川文化振興財団メディア・コンテツ研究寄付講座開設記念シンポジウム「メディアミックスの歴史と未来」が開催された。

「東アジア・アジアとの視点」「新たな」を題された第1部では、大塚英男教授（東京大学）、小見積俊教授（東京大学）の講演を行い、その中でグローバルな視点から日本とアジアの関係について考察した。特に、アジアと日本との関係は、近年の国際情勢の変化に伴ってますます重要となってきている。

第二部は「創造と産業が活発化する」というテーマで、角川英史氏（株式会社KADOKAWA）による、サブカルチャーとメディア・プラットフォームに関する講演に続いて、川上陽子（株式会社ドワンゴ）、マーク・スタンダーバー（コンソーシアム大学）が登壇し、未来のメディアとコンテンツの変革について議論した。

（准教授・接客）
あとがき
学果としては三つの研究教育機と、ダイワユピテク社研究開発部の研究開発部務所が発表しました。高音質設計事務所による発表が環境と調和するデザイン、そして内部はユピテク社研究の成果が盛り込まれたスマートビルディングになっている。本図ギャラリーでは唯一の「動画カフェ」もありますので、百会場近くにお立ち寄りの際はぜひご利用下さい。（森本純一）